

おかげさまでTOEFLテスト日本事務局30周年、TOEFLメールマガジン10周年

TOEFL メールマガジン VOL.97

May 2011

いいね! 0 [シェアする](#)

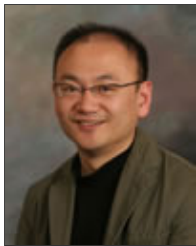
達セミに学ぶ 英語学習のヒント

[▶ バックナンバーはこちら](#)

英語教師による英語教師のための情報シェアの場「達人セミナー」通称「達セミ」をご存知ですか。毎週のように自発的かつボランティアで全国各地にて開催され、それぞれの授業方法を公開しシェアしています。基本的には中学・高校の教師の方々を中心ですが、その授業には英語を楽しく学ぶヒントがたくさん隠されています。その中から毎月1名の先生にレポートしていただきます。

今回のヒントはこれ：

- 「つながる語学のすすめ」



新潟県立新潟中央高等学校 教諭
水戸直和先生
(新潟大学大学院教育学研究科在籍中)

語学に反復練習やスピード感は大切です。ただ、時々、ひと息ついてみませんか。長い旅路を確実に歩む原動力となります。

■私の授業は音読重視だ。しかし、どれほど音読しても成果が出ない生徒がいるのである。豊富なインプットだけで、アウトプットは容易に、というのは単なる私の思い込みだった。原因は分かっている。ずばり文法を理解していないからだ。日々の音読練習を確実な成果に結び付けるには、やはり文法の「理解」が不可欠である。

■そうなると文法を勉強しなければ…ということになる。しかし、どうしてどうして。あれだけ分厚い参考書を通読する意欲はなかなか湧いてこない。それはそうだろう。書かれてあることを受け入れるだけだ。面白いはずがない。それに覚えたら覚えたと、逆に発信できなくなる。つるるのは間違っていないかという不安だけだ。

■話を音読活動に戻そう。音読の効用のひとつは触れる英語の絶対量を増やすことにある。そこで徹底的な音読練習の際に、ふと立ち止まる場面を盛り込む提案をしたい。すなわち、徹底的な音読によって触れた英語の中から、今度は自分で、文の特徴や共通点を「引き出し」てみるのである。つまり文法を帰納的に発見し、整理するのである。その際、それを自分の言葉で説明してみるとよい。次第に知識がつながり、英語が見えてくる。

■ここで私の授業的一幕をご覧ください。

今月号の更新ページメニュー

[▶ 今月の目次](#)

TOEFL iBT情報

[▶ TOEFL iBT体験レポート](#)

読み物

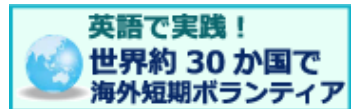
- ▶ For Lifelong English
- ▶ 俳句で一息 Haiku Time
- ▶ 読者投稿

留学／英語学習情報

- ▶ 達セミに学ぶ英語学習のヒント
- ▶ My Phrase My Word

オフィシャルサイトへ

- ▶ TOEFLテストトップページ
- ▶ TOEFLテスト教材ショップ
- ▶ TOEFLテスト ITP
- ▶ Criterion



私： I'm forty years old. This is my treasure. This dictionary has taught me a lot. It's almost twenty years old.

生徒： え？ 先生、そんな言い方もあるんですか？

私： あるんだよ。試しに自分の身長を英語で説明してごらん。今の文を真似てみて。

生徒： I'm 170 centimeters tall. でいいんですかね？

私： OK！ では、なんでそんな文を作れたのか、説明してみよ。

生徒： 数字のあとに単位をつけて、そして最後に様子をしめす語が来るのかなと思っただけです…。

私： さすがー！ では「この木は直径2メートルだ」も言えるよね？

生徒： 幅はwide だから… This tree is two meters wide. です！！

■この授業は文法に息吹を吹きこむことをねらっている。単に人から言われたものではない。自分が導き出したものだ。納得もいき定着もしやすい。そして何より、自信をもってそれを活用したくなる。

■ここで2つ補足をしたい。まず、実際、自分で引き出した文法を使っても、残念ながら不自然な表現と指摘される場面もありうる。外国語だから仕方のないことだ。また触れる英語が多くなるにつれて自身の文法が研ぎ澄まされはするが、それが適応されない場面に遭遇することもありうる。しかしそんな場面にあっても、私たちの態度はすでに攻撃態勢となっている。少しくらいの修正や失敗は平気だ。確認のために勇敢に参考書を、いや専門書すら読み込む自分自身を見つけていることだろう。

■語学学習は練習・確認・修正の連続である。基本的な事項こそきちんとモノにしたい。例えばenjoyは誰もが知っている一語である。ところが、このenが高校レベルの単語enableのそれと同じ働きであることに「気づいた」のは何を隠そう、つい最近のことだ。語源辞典にもしっかりと書いてある。今、私が活用したくて仕方がない知識のひとつだ。

■このように発信することで人とを結ぶ。そして立ち止まることで知識をつなげる。こうして私たちの世界を広げてくれる言葉は、やはり魅力的なものである。

「引き出す」私の授業実践

- [DVD「手軽に準備！気軽に導入！スパイラル活動アラカルト」](#) 授業者：水戸直和（ジャパンライム）
- [「ハードルの高くない Show & Tell の工夫 ～ ビジュアルエイドを併用した『マニアック発表会』」](#) 水戸直和 雑誌『英語教育』2009年7月号（大修館書店）

おすすめの本（「引き出し」た後に）

- [「ライティングのための文法ハンドブック」](#) 富岡龍明、堀正広、田久保千之 著（研究社）
- [「文法がわかれば英語はわかる！」](#) 田中茂範著（NHK出版）

おすすめのサイト（「気づき」（noticing）について）

[IATEFL（International Association of Teachers of English as a Foreign Language）](#) に掲載されているCatherine Walter 先生の講義（動画・ハンドアウト入手可）が参考になる。

TOEFLテスト日本事務局
<https://www.etsjapan.jp/>

| [プライバシーポリシー](#) | [お問合せ](#) |

上記は掲載時の情報です。予めご了承ください。最新情報は関連のウェブページよりご確認ください。

(c) ETS Japan, All Rights Reserved.